

都市の街路に描かれる落書きの分布と特徴

—渋谷駅周辺の建物シャッターに対する落書き被害から—

THE DISTRIBUTION AND CHARACTERISTICS OF UNLAWFUL GRAFFITI DRAWN
IN THE STREETS OF THE CITY

Study on graffiti damages on building shutters around Shibuya station

小林 茂雄*

Shigeo KOBAYASHI

In conjunction with the analysis of the distribution and characteristics of unlawful graffiti drawn in the streets of the city, this study examines the measures for preventing graffiti damages. The distribution range and presence of graffiti on building shutters were examined in the vicinities of Shibuya Station where there is the most frequent occurrence of graffiti in the Tokyo metropolitan area. As a result, there was more graffiti on busy streets, and there was a tendency for graffiti being drawn more easily on shutters of such small scale buildings as a multi-tenant building compared to such large scale buildings as a department store. Moreover, there was a tendency for unmanaged shutters of vacant shops being easily damaged by graffiti, and well looked after shutters being less easily damaged by graffiti. Furthermore, there was also a tendency for a similar type of graffiti grouping around an elaborate piece of graffiti.

Keywords: graffiti, shutter, street, color, scenery, Shibuya

落書き、シャッター、街路、色彩、景観、渋谷

1. 研究の背景と目的

近年、都市部の屋外空間において落書きの被害が顕著であり、その被害対象は広範囲に拡大している。ガードレールやストリート・ファニーチャーなど公共の物に対してばかりでなく、戸建住宅や集合住宅の壁、建物のシャッターなどの私的所有物にも描かれるようになった。落書きの中には完成度が高く芸術的なものもあるが、大半は即興的に描いた判読不明なサインや文字の羅列など粗悪なものである。他者の所有物や公共物に対する落書きは、建造物損壊罪や器物損壊罪、都道府県の迷惑防止条例にあたる違法な行為であり、また都市景観の保全を考える上でも重要な問題である。落書きによる被害は社会現象として様々なメディアで取り上げられているが、これまで客観的かつ体系的に調査したものはない。本研究は街に描かれる違法な落書きやグラフィックアートなどを総称して落書きとし、首都圏で最も落書きが多く発生していると思われる渋谷駅周辺地域を対象に、それらの発生形態と特徴を分析すると共に、落書きの被害を受けない対象の特徴について検討する。

若者が無断で描く落書きは古くからあるものであり、それ自体は新しい行為ではない。しかし近年になって、それらはより顕著となった。近年の落書きの特徴として、グラフィティ (graffiti) と呼ばれるものがある^{1)~3)}。スプレー塗料を用いてレタリングされたアルファベットの文字などが描写されるものであり、1970年代初頭にニューヨークで地下鉄の車体⁴⁾などに描かれたのをはじめに、1980年代にはヨーロッパ各地に広まった。日本でも影響を受けた落書きが、1990年代以降急速に都市部で増加

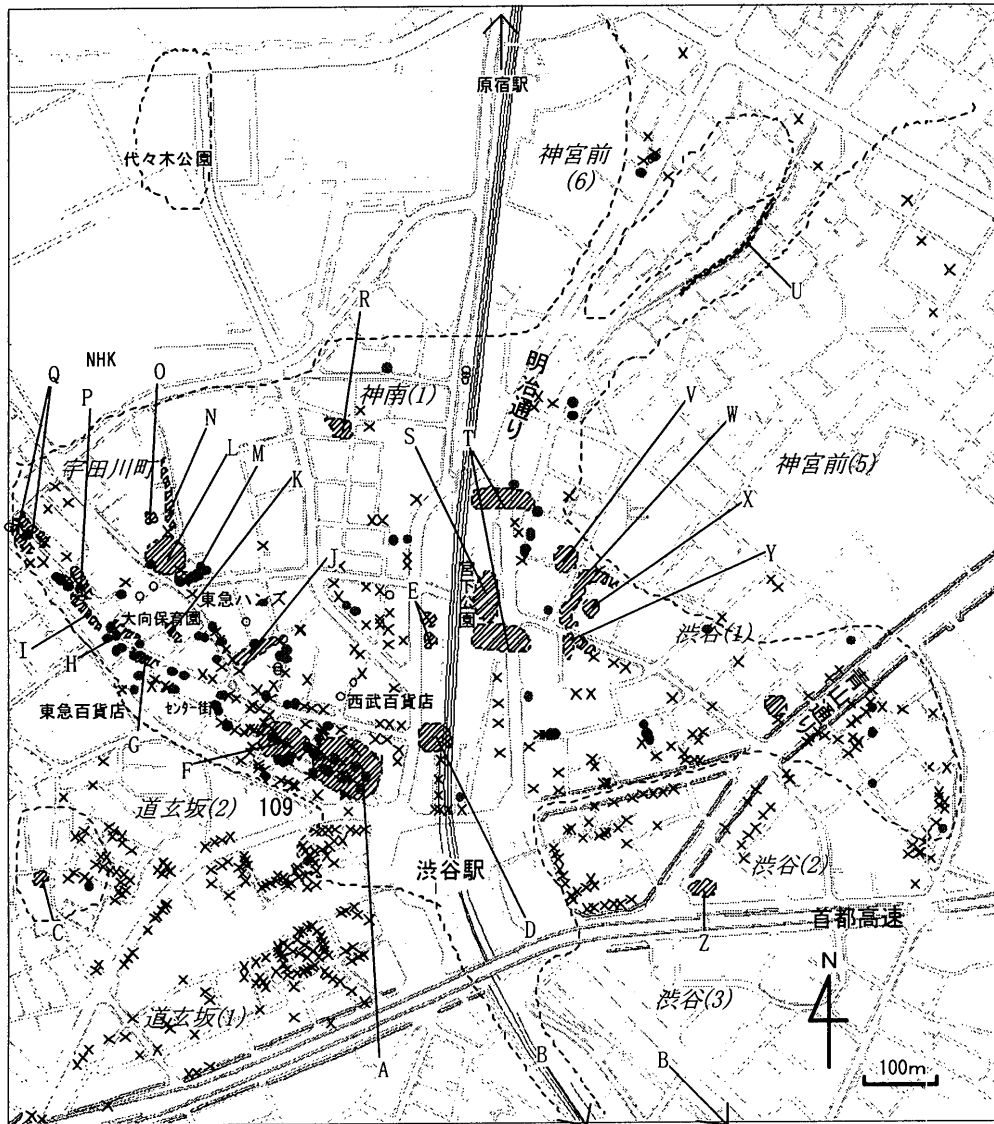
するようになった。こうした落書きは、都市文化の一側面を担うものでもあり、また積極的な表現を追求する行為者は落書きが都市環境を装飾するものとして捉えている場合もある。実際にパブリックアートの一環として、自由に落書きしてよい壁面が公共空間に提供されることもある^{5)~8)}。しかし現実にある落書きは粗悪なものが多く、所有物や公共物を侵害するという行為の違法性だけでなく、景観保全の面からも決して容認されるべきものではない。落書きの被害を抑える上でも、どのような場所に落書きがされているかを調査しその特徴を分析することで、行為者側の行動パターンを読みとったり、環境側の対策について検討する必要があると考えられる。

2. 渋谷駅周辺の落書き分布

首都圏で落書きが多くみられるのは、新宿、渋谷、原宿、代官山、下北沢、吉祥寺、桜木町など、10代~20代の若者が集まる繁華街である。本研究ではその中でも最も被害が深刻な渋谷⁹⁾を調査対象とすることとした。はじめに、渋谷駅を中心として半径約1.5kmの範囲において、落書きが分布している場所やその特徴についての調査を行った。調査期間は2000年10月~12月である。図1に調査結果から、落書きの分布範囲と、大規模な落書きや特徴的な落書きがみられたものについて示す。破線の分布範囲は、落書きが目立ってみられる範囲であり、その外側には落書きが全く存在しないわけではない。落書きは、渋谷駅から離れた地点では収束している。ただし、北の原宿側、南の代官山・

* 武蔵工業大学工学部建築学科 講師・博士(工学)

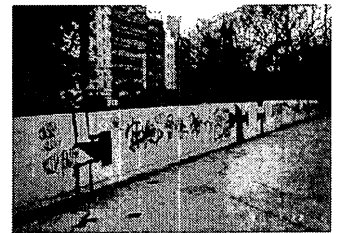
Lecturer, Dept. of Architecture, Musashi Institute of Technology, Dr. Eng.



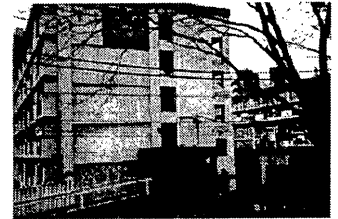
凡例

- 落書きの大凡の分布範囲
- 落書きが特に密集してある地域
- シャッターに対する落書き
- 落書き有り
- 落書きが消された痕
- × 落書き無し

- N: ガードレールや格子状のフェンスに落書きが並ぶ。
- O: 集合住宅の貯水タンクの大きな落書き。道路から少し離れたところにあるが、高い場所にありサイズも大きいいため、目に付きやすい。
- P: 住宅、工場の周壁全体に描かれた落書き。
- Q: 道路を挟んだ向かい同士の2つの雑居ビルの簡素な落書き。この場所より北側の神南2丁目では落書きが全くなくなる。
- R: 北谷公園を囲む壁に鮮やかな色を使った落書きが描かれている。
- S, T: 宮下公園内の公衆トイレや遊具、公園を結ぶ明治通り上の歩道橋に描かれた落書き。15cm程の幅しかない手すりに細かいサインが並ぶ。



- U: 遊歩道(キャットストリート)沿いの側壁や遊具などに小さな落書きが描かれている。
- V: 都営住宅の外壁への落書き。高さを競うかのように上方へと落書きが描かれている。



- W: 美竹公園の周壁には、様々なタイプの落書きがされている。
- X: 公園内のトイレを埋め尽くす落書き。殴り書きから手の込んだものまで、様々な落書きが何重にも描かれている。

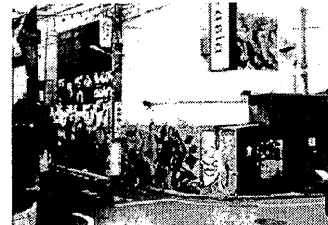


- Y: 雑貨屋の壁に描かれたポップアートの壁面。
- Z: 歌手・尾崎豊のレリーフがある周辺の壁や歩道橋に、故人を偲ぶ落書き。サインペンなどで数百ものメッセージが描かれている。

A: 渋谷センター街入り口付近。漢字による暴力的な落書きが多い。シャッターへの落書き比率が最も高い場所。

B: 恵比寿、代官山へ向かう線路沿いの擁壁やトンネル内部、建物などへの落書き。電車から見えることを意図したためか、比較的サイズが大きい。

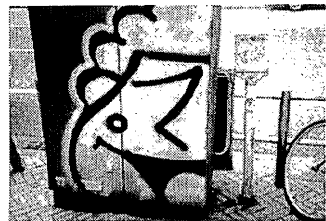
C: ライブハウスの外壁への鮮やかな色彩の壁画。



D: 山手線高架下のトンネル内部や入口部分に埋め尽くされた落書き。消された上に何重にも描かれている。



E: 歩道上に設置された複数の電気設備に大胆に描かれた顔型の落書き。



F: シャッター全体を使って描かれるような、大きめの落書きが多い。

G: 小規模建物の店舗の壁やシャッターに比較的凝った落書きが描かれている。

H: パブやスナックへの殴り書き。

I: 東急駐車場裏の壁一面に描かれているドラえもん絵。元々あった悪質な落書きを防止する為に、所有者が依頼して描いてもらったもの。



J: 壁の裏側や空調機に殴り書きがされている。

K: 7台並んだ自動販売機の裏側壁一面に絵が描かれた色鮮やかな壁画。歩行者からは目立たない。



L: 商業ビルだけでなく、住宅の外壁や地面にまで至る所に様々なタイプの落書きがされている。渋谷で最も落書きの密度が高い場所。



M: 東急ハンス横の車道の側壁やシャッターへの落書き。建物への落書きはデザイン性の高いものがある。



図1 渋谷駅周辺の落書きの分布とシャッターに対する落書きの有無(2000年10月~12月調査時)

恵比寿側では、収束しかけた落書きが、原宿、代官山に近づくにつれてもう一度密度を増して分布するようになる。また、落書きが一度途絶えた場所で発生しているものとしては、代々木公園内と図中Cのライブハウス周辺がある。両地域とも、若者が日常的に多いという場所ではなく、週末や特定の日時に限って楽器の演奏やスケートボードなどの同じ目的を持つ若者が集まってくるという特徴がある。落書きは全体的に商業地域で多く発生し、オフィスや住宅の建つ地域では少ない。住宅の中では、戸建て住宅よりも集合住宅に対する落書きの方が多い。ただし、図1のLやPでは戸建て住宅に対しても落書きがされている。

渋谷において最も落書きが集中しているのは、駅の北西側のセンター街からNHKまでの宇田川町のエリアである。特にセンター街の渋谷駅側付近 (A、F)、東急ハンズの北側 (L、M、N、O)、大向保育園周辺 (G、H、I)、渋谷駅北側の宮下公園 (S、T) は落書きの密度が高く、特徴ある落書きが多い。落書きがされる対象としては、工事中の仮囲いや立て看板、建物の外壁やシャッター (分布範囲全域)、ガードレール (N)、道路や線路沿いの擁壁 (B、M)、路面 (L) やストリート・ファニチャー (E、Uや明治通り沿い)、公園内の遊具やトイレと周壁 (R、S、T、W) などである。DやTの宮下公園とその周辺には「落書き禁止」の掲示が複数貼られており、渋谷区やボランティア団体によって定期的に落書きの消去が行われている。しかし消去された上に再度落書きがされ、それらの繰り返しが続いている。

落書きの内容は、その多くがアルファベットの文字の羅列や何らかの記号のようなものである。大きさは20cm程度の小さいものから幅が5mを越えるような大規模なものまである。全体的に落書きの大きさと描かれ

る場所には特定の関係があるように見受けられる。それは、描かれる対象の面積などによる場合もあるが、描かれる対象がどのような位置にあるかということにも関わっている。例えば、道路脇のシャッターや壁面に描かれる落書きの文字は全体的に小振りで、街路を歩く歩行者が判読できる程度のものである。一方、OやVの建物高層部の落書きや、Bなどの線路沿いの落書きは、全体的に大規模なものが多い。これは、遠方の歩行者や電車内の人物によく見えるように意図して描かれているのではないかと考えられる。

3. 建物シャッターに対する落書きの特徴

3.1 調査概要

渋谷に限定した落書きについても、その数は膨大なものになり、落書き全てに対して特徴を分析するのは困難と考えられた。そこで、落書きが描かれる対象を建物のシャッターに限定して調査することとした。シャッターは、落書きの被害が多いこと、渋谷駅周辺に万遍なく設置されていること、個々のシャッターの面積が限定されていること、などによって場所による落書き数や特徴が比較しやすいという利点がある。調査範囲は、図1に含まれる、道玄坂1丁目・2丁目、宇田川町、神南1丁目、神宮前5丁目・6丁目、渋谷1丁目・2丁目とした。この範囲にある建物1階の全てのシャッターについて、落書きの有無に関わらず正面から写真撮影を行った。同時に、シャッターが属する建物の種類と店舗の業種、シャッターと道路の位置関係、周辺環境の特徴などを記録した。写真からはシャッターの色、落書きの色や数、そして落書きのタイプ等を読み取った。調査は2000年10月～12月に、主としてシャッターが閉

表1 地区別の落書きシャッター数

	道玄坂1丁目	道玄坂2丁目	宇田川町	神南1丁目	神宮前5丁目	神宮前6丁目	渋谷1丁目	渋谷2丁目	全地区
落書き有	0	2	64	5	2	3	15	4	95
落書き痕	0	0	11	4	0	1	0	0	16
落書き無	81	95	95	19	5	10	52	81	438
全シャッター数	81	97	170	28	7	14	67	85	549
落書き率	0.0%	2.1%	37.6%	17.9%	28.6%	21.4%	22.4%	4.7%	17.3%

表2 建物種類と人通り別の落書きシャッター数

	人通り						全体					
	1		2		3							
大規模建物	11	11	9.1%	0	16	0.0%	11	25	4.0%	2	52	3.8%
オフィスビル	0	7	0.0%	0	10	0.0%	0	1	0.0%	0	18	0.0%
雑居ビル	16	103	15.5%	16	117	13.7%	22	68	32.4%	54	288	19.4%
飲食店	7	40	17.5%	5	43	11.6%	6	20	30.0%	18	103	17.5%
小売店	3	18	16.7%	6	42	14.3%	13	33	39.4%	22	93	23.7%
サービス業	0	17	0.0%	0	14	0.0%	3	9	33.3%	3	40	7.5%
ビル入り口	3	18	16.7%	3	13	23.1%	0	2	0.0%	6	33	18.2%
空店舗	3	10	30.0%	2	5	40.0%	2	4	50.0%	7	19	36.8%
小規模建物	6	55	10.9%	13	78	16.7%	17	35	48.6%	36	168	20.2%
飲食店	1	18	5.6%	7	37	19.0%	12	16	75.0%	20	71	25.4%
小売店	1	12	8.3%	5	27	18.5%	3	14	21.4%	9	53	17.0%
サービス業	2	18	11.1%	0	7	0.0%	2	4	50.0%	4	29	13.8%
空店舗	2	7	28.6%	1	7	14.3%	0	1	0.0%	3	15	20.0%
住宅	2	17	11.8%	1	6	16.7%	0	0	0.0%	3	23	13.0%
全体	25	193	13.0%	30	227	13.2%	40	129	32.6%	95	549	17.3%

左：落書き有シャッター数 中：全シャッター数 右：落書き率
 大規模建物：道路に20m以上面する建物 人通り：平日12～17時の通行量による分類
 雑居ビル：4階建以上の建物で、大規模建物、オフィスビル、住宅でないもの 3・・・10分間に200人以上の通行量
 小規模建物：3階建以下の建物で、オフィスビル、住宅でないもの 2・・・10分間に50～200人の通行量
 1・・・10分間に50人未満の通行量

表3 店舗業種と落書き率

	落書き有	全シャッター数	落書き率
雑貨・小物	5	12	41.7%
服飾品	8	21	38.1%
洋食レストラン	10	37	27.0%
空店舗	9	34	26.5%
本・ビデオ	4	16	25.0%
中華・エスニックレストラン	4	16	25.0%
CD・レコード・楽器	3	13	23.1%
生活用品販売店	4	21	19.0%
ビル・住宅	6	33	18.2%
居酒屋・バー	14	80	17.5%
電化製品	2	12	16.7%
喫茶店	2	13	15.4%
性風俗店	1	7	14.3%
複合施設	1	8	12.5%
和食レストラン	6	52	11.5%
美容院・エステサロン	1	10	10.0%
美術品等	1	11	9.1%
駐車場・倉庫	4	45	8.9%
パチンコ・ゲームセンター	2	33	6.1%
オフィス	1	18	5.6%
デパート	0	12	0%
貴金属	0	13	0%
その他	7	32	21.9%
合計	95	549	17.3%

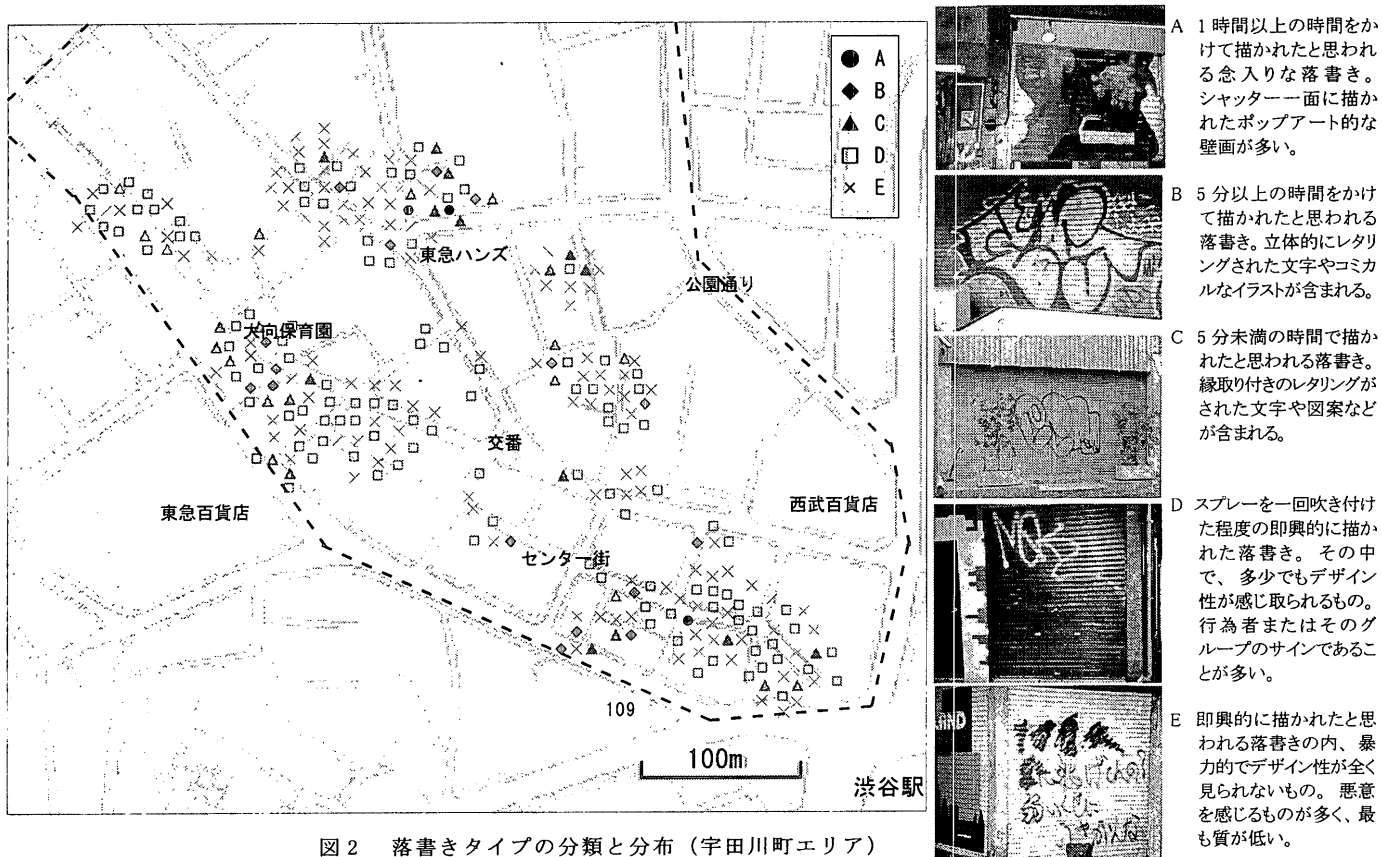


図2 落書きタイプの分類と分布 (宇田川町エリア)
同一シャッターの複数の落書きは、個々の記号が重ならないように位置をずらして布置している

じている早朝から11時までの時間帯に行った。

3.2 調査結果

3.2.1 落書きされるシャッターの特徴

図1に、調査範囲のシャッターを落書きの有無で区分して布置している。また表1に調査地区別の落書きシャッター数を示している^(注2)。調査対象地区内の全シャッター数は549であり、落書きのあるシャッター数は95で、落書き率は全体で17.3%である。表中の「落書き痕」は、過去にあった落書きが調査時に消されていることが判断できたものであり、「落書き有」には含んでいない。地区別に見ると、宇田川町が落書き率37.6%と極端に高く、道玄坂1、2丁目0%、2.1%と最も低い。

宇田川町は、渋谷駅とNHKの間にある地域で、渋谷駅周辺で最も賑やかで多くの人々が集まる場所である。落書きの多さは、その場所の賑やかさと関連していることが考えられ、また、特定の建物に落書きがされやすいということも考えられる。そこで、場所の賑やかさを表す一つの目安として、平日の12～17時にシャッターの面する街路の人通りを調査し、大きく3段階に分類した。さらにシャッターが属する建物の規模や業種を13種類に分類した。表2に、これらの分類と落書きの有無との関係を示す。人通りと建物種類には、住宅を除いて大きな片寄りなかった。人通りと落書きの関係を見ると、人通りが多い街路に面するシャッターは落書き率が32.6%と高く、人通りが少ない街路では13.0%と低い。また建物種類についてみると、雑居ビルや小規模建物では落書き率が平均20%前後と比較的高く、住宅では13%と比較的低く、大規模建物やオフィスビルでは5%以下と非常に低い。デパートなどの大規模建物で落書き率が低い理由としては、見通しが良すぎる場所にあることや、落書きを直ぐに消すようにしていること、防犯に対する管理がされていることなどがあると考えられる。また、雑居ビルや小規模建物の中でも落書きが顕著なのは、空店舗である。この原因としては、第一に、空店舗

のシャッターは一般の店舗が営業している日中も閉じたままであることが多く、シャッター面が暴露される時間が長いことが考えられる。次に、シャッターやその周辺が汚れていることが多いことから、汚す行為に抵抗が小さいことである。また、他者の所有物という明確性が薄いこともあると考えられる。

表3には、シャッターの属する店舗の業種をより細かく分類し、落書きの有無との関係を示している。落書き率が高いものは、雑貨・小物店、服飾品店などであり、その中でも10代～20代の若者向けの店舗であることが多い。CD・レコード・楽器店での落書きは、幅広いジャンルを扱う大手レコード店にはなく、全て特定のジャンルを扱う専門店に描かれている。これらの店舗では、シャッターだけでなく壁面やガラス面に多様な表現の落書きがみられる。一方、落書き率が低い業種は、オフィスやデパート、貴金属店などである。以上のことから、落書きは、人通りの多い場所や小規模な建物で多く、また若者がよく利用する店舗と空店舗で多いといえる。

3.2.2 落書きのタイプと分布

次に、どのような落書きがシャッターに描かれているかということに着目する。落書きのタイプには、文字のスタイルや表現方法を行為者が独自に名称づけているものもある^(注3)が、ここでは芸術性などに関わるものはできるだけ排除して、主としてどの程度手が込んだものであるかという観点で分類することとした。図2に5つの分類(A～E)の特徴と、最も落書きが多い宇田川町エリアにおける分布を示す。同一のシャッターに複数の落書きがある場合、それらは独立して扱っている。図より、落書きは、センター街の渋谷駅側、東急ハンズ北側、大向保育園の南側と北側、交番の北東付近の5箇所に密集していることが分かる。センター街は宇田川町内でも最も賑やかで人通りが多く、東急ハンズ北側はレコ屋坂と称されるレコード店が点在している場所であり、また大向保

育園周辺は小規模な3階建の店舗が多い特徴がある。東急ハンズ北側と大向保育園周辺には手の込んだA、B、Cの落書きが比較的多くみられる。この地域にはシャッター以外の建物壁面や塀に大規模で非常に手の込んだ落書きや壁画がある。それらの存在が他の落書きにも影響を与えているのではないかと推測される。

表4には、調査範囲全域でのタイプ別落書き数を建物種類毎に示している。D、Eに分類される落書きが圧倒的に多く、両者で全体の80%以上を占めている。シャッターへの落書きは総じて簡素で、短時間で描かれたものが多い。建物種類による落書きタイプについては顕著な片寄りはないが、小規模建物にEの落書きが若干多いという特徴がある。

3.2.3 シャッターの色と落書きの色

表5は、どのようなシャッターの色に落書きが描かれているかを表したものである。シャッターの色は白が総数で372と最も多く、全体の67%を占めている。つづいて、灰、黒と、無彩色のシャッターが多い。落書き率は、赤、黄、緑のシャッターで20%以上と若干高く、青で4.5%と極端に低い。青で少ないのは、彩度が高く明度が低いので、落書きが目立ちにくくなるのが要因の一つと考えられる。また表6には、シャッターの色と描かれる落書きの色との関係を示している。一つの落書きが複数の色で描かれるものは11と少なく、単色で描かれたものが圧倒的に多い。落書き色は黒が最も多く、全落書き数の40%を占めている。特

表4 落書きタイプと建物種類別の落書き数

	落書きタイプ					合計
	A	B	C	D	E	
大規模建物	0	2	1	2	7	12
オフィスビル	0	0	0	0	0	0
雑居ビル	1	8	24	113	87	233
飲食店	0	3	8	33	18	62
小売店	1	2	12	51	47	113
サービス業	0	1	2	6	9	18
ビル入り口	0	1	2	12	2	17
空店舗	0	1	0	11	11	23
小規模建物	3	12	18	65	73	171
飲食店	3	3	9	26	34	75
小売店	0	6	6	24	28	64
サービス業	0	2	1	8	6	17
空店舗	0	1	2	7	5	15
住宅	0	0	0	3	2	5
合計	4	22	43	183	169	421

表5 シャッター色と落書きの有無

	シャッター色							
	白	灰	黒	赤	黄	緑	青	複色
落書き有	66	13	3	5	3	3	1	1
落書き痕	11	4	0	0	0	0	1	0
落書き無	295	69	16	18	6	9	20	5
全シャッター数	372	86	19	23	9	12	22	6
落書き率	17.7%	15.1%	15.8%	21.7%	33.3%	25.0%	4.5%	16.7%

表6 シャッター色と落書き色別の落書き数

	シャッター色	シャッター色							合計	
		白	灰	黒	赤	黄	緑	青		複色
落書き色	白	23	24	14	5	0	6	3	0	75
	灰	14	2	0	0	0	0	0	0	16
	黒	136	13	2	7	3	3	2	3	169
	赤	52	8	0	0	0	5	0	0	65
	黄	8	3	4	0	0	0	0	0	15
	緑	6	1	1	0	0	5	0	1	14
	青	46	6	2	1	0	0	0	1	56
	複色	7	1	0	0	1	0	2	0	11
合計		292	58	23	13	4	19	7	5	421

に白のシャッターに対しては黒の落書きが46%を占める。ただし、灰、黒、緑のシャッターには黒よりも白の落書きの方が多い。地の色の明度が低い場合は、より目立つ明るい色が選択されているのではないかと考えられる。また、赤、青の落書きもそれぞれ65、56と数が多い。いずれも80%以上が白のシャッターに描かれている。

図3には、落書きタイプ別の落書き数を、黒色落書きとそれ以外で示している。黒の落書きの比率は、A、B、Cでは約30%以下と低く、Dでは35%、Eでは50%と順に高くなる。このことから、手の込んだ落書きは黒の単色以外で描かれる傾向にあり、簡素で暴力的な落書きほど黒が使われる傾向があるといえる。

4. 落書きされにくさに対する考察

以上の結果などから、シャッターに対する落書きのされやすさとされにくさについて考察する。落書きされやすいシャッターの特徴は、まず賑やかで人通りの多い街路に面していることがある。これには2つの要因が考えられる。一つは、落書きをする行為者が日常的に行動する範囲ということであり、もう一つは、多数の人物に見せることができるというこ

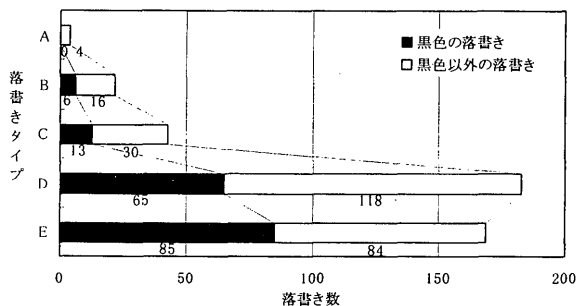


図3 落書きタイプと落書き色

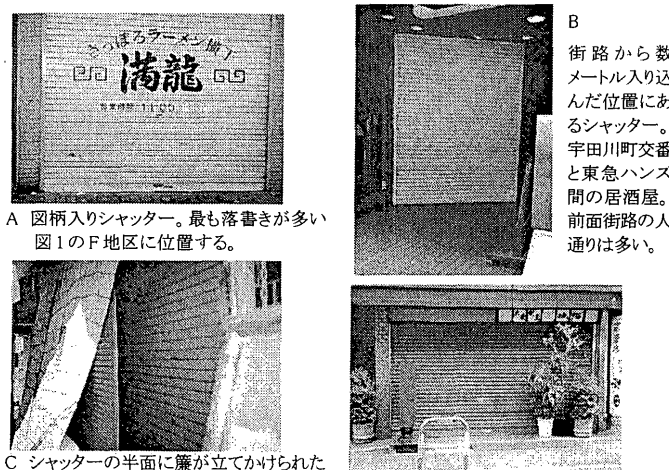


図4 落書きのないシャッターの例

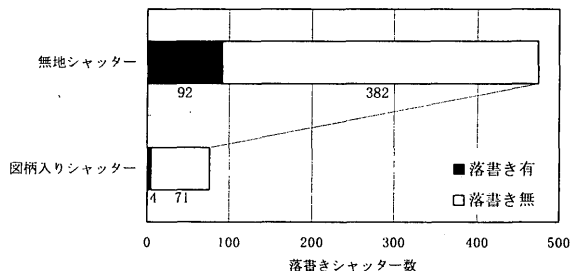


図5 シャッターの図柄と落書きの有無

とである。ただし、常に監視の目にさらされたり、見通しがよすぎるシャッターには描かれにくいと考えられる。また、空き店舗で落書きが多いことは、シャッターの暴露時間の長さや汚れ、所有の明確性のなさなどによるものと考えられる。逆に、住宅、特に戸建て住宅に落書きが少ないのは、所有の明確性が確保されていることの効果があるものと推測される。そして、若者向けの雑貨店やレコード店などでの落書きの多さは、若者が群れ集まる場所であることと同時に、落書きを生む土壌の一つであるヒップホップ²⁴⁾などのストリート文化を扱っていることに関係していると考えられる。そうした文化を持つ対象に落書きすることで、行為者は参加することの満足感や共有意識が得られたりするのではないかと推測できる。

図4には、落書きが多い地区にあって、落書きがされていないシャッターの例を示したものである。図4Aは、シャッターに店名が大きく入っている例である。このように、シャッターに店名が書かれていたり、模様がプリントされていたりする場合には落書きされにくい傾向がみられた。そこで、図5にシャッターに図柄や文字が入っているかによって落書き数を比較した。図より、図柄が入ったシャッターは無地のシャッターより落書き率が低くなっている(危険率1%で有意)。この要因は落書きを描く上で邪魔になることや、所有の明確性が確保されていることがあると考えられる。また図4Bは、道路に面さず施設内に数m入った場所にあるシャッターの例である。宇田川町でのこのタイプのシャッター数は35であり、その内落書きされているシャッター数は5とこのエリアにおいて非常に少ない。この理由は、落書きしても通りの人の目にふれにくいことや、私有された空間内に侵入することの物理的な障害と心理的な障害があることなどが考えられる。図4のCとDは、シャッターの前に簾が立て掛けてあったり植栽が置いてあったりする場合である。これらの存在は、落書きを描く際に障害となること、所有の明確性を確保すること、手入れが行き届いているために汚すことに抵抗を持たせることなどの働きがあると考えられる。

以上のことから、落書きされにくいシャッターの条件として、落書きの目立ちにくさ、落書きの行為に対する物理的障害、所有を明確にさせるサインなどの象徴的障害、自然監視性、などが挙げられる。これらは基本的に、Newmanら^{10)~11)}が指摘する犯罪防止のための考え方と一致するものであり、領域性や監視性を強化することが落書き防止に効果を生むものと考えられる。ただし、多くの犯罪行為は他者からの死角となる空間で行われやすいのに対し、落書きはそれを他者に見せつけることを一つの目的としていることに特徴がある。この点で犯罪行為を抑制する方法に関しても差異が生じるものと考えられる。すなわち、他者の視線が落書きを抑制する側に働く可能性と、促す側に働く可能性の両面を考えていかなければならない。

5. 結論

本研究では渋谷駅周辺の建物シャッターに対する落書きについて調査検討した。得られた主な結果を以下にまとめる。

- ・落書きは、人通りの多い街路に面するシャッターや雑居ビルや小規模建物のシャッターで多く、大規模建物やオフィスビルのシャッターで少ない。また若者の利用する雑貨店や服飾品店、レコード店などのシャッターと、空店舗のシャッターで多い。
- ・シャッターに対する落書きは、全体的に簡素で手の込んでいないものが多い。手の込んだ落書きは、偏って存在する傾向がある。
- ・シャッターに対する落書きは単色が多く、全体の40%は黒の単色であ

る。黒の落書きは手の込んだものより、簡素なもので多い。また明度が低いシャッターに対しては白などの目立つ色で描かれることが多い。

・落書きされにくいシャッターの条件として、落書きの目立ちにくさや、落書きの行為に対する物理的障害の他に、所有を明確にするような象徴的障害があると考えられる。

今後の課題

本研究では渋谷駅周辺の落書きとその周辺環境との関係を検討したが、他の地域で同様の関係が得られるとは必ずしもいえない。落書きという違法行為を抑制するような建物やシャッターの基本的な条件は地域によらず安定している部分が多いと考えられるが、落書きの表現方法や表現対象については、行為者の意図やその地域の持つ文化などに左右される面も大きいと思われる。地域による比較や落書きする行為者側の意図を探ることを今後の課題としたい。

謝辞

本研究は、武蔵工業大学卒論生の石川拓也氏と大沢篤氏と共同で行った。記して謝意を表する。

注1) 1990年代後半より、渋谷ではスプレー塗料などによる落書きが多発するようになった。10代~20代の若者の自己表現であったり、若者グループのなわばりを示すサインなどであったりするといわれている。悪質な落書きやゴミ問題に対処するため、渋谷区では1998年4月1日「きれいなまち渋谷をみんなで作る条例」が施行された。また宮下公園などでは行政や住民、ボランティア団体が協力して定期的に落書き除去の活動を行っている。しかし条例施行後も落書きの被害は減少していない。

注2) シャッターに対する落書きのほとんどは無断で描かれた違法なものであるが、一部には管理者に依頼して描かれたものや容認されているものもある。ここでは、依頼して描かれたことが明確なものは落書きに含めないこととした。

注3) 例えば、泡のような膨らんだ輪郭線とその内側を塗りつぶした文字のことをスローアップ(THROWUP)、文字が重なり合ったうえにつながっているその先端は矢印になっているスタイルのことをワイルドスタイル(WILDSTYLE)、行為者の存在を示すロゴやサインをタグ(TAG)などと呼んでいる¹⁹⁾。

注4) 1970年代のニューヨークで生まれた文化で、当時のスラム街で黒人の若者を中心に流行した。ダンス、ラップミュージック、グラフィティ(壁や電車の車両への落書き)、DJなどの要素を含む。

参考文献

- 1) 能勢理子：ニューヨーク・グラフィティ、グラフィック社、2000.7
- 2) Cooper, M. and Chalfant, H. : Subway Art, Henry Holt & Company, 1984
- 3) Murray, J. and Murray, K. : Broken Windows : Burning New York, Gingko Press, 2002
- 4) Henry C. and Prigoff J. : Spraycan Art., Thames & Hudson Inc., 1987
- 5) デザイン・グラフィックアートの世界線、Studio Voice, vol.306, pp.20-65, 2001.6
- 6) グラフィティの未来系、Studio Voice, vol.314, pp.16-57, 2002.2
- 7) 杉村荘吉：パブリックアートが街を語る、東洋経済新報社、1995.3
- 8) Sommer, R. (加藤常雄訳)：デザインの認識、鹿島出版会、1978
- 9) Graffiti@Yokohama <http://village.infoweb.ne.jp/~itscool/>
- 10) Newman, O. (湯川利和・湯川聰子訳)：まもりやすい住空間—都市設計による犯罪防止、鹿島出版会、1976
- 11) Poyner, B (小出治、清水賢二、佐々木真郎、高杉文子訳)：デザインは犯罪を防ぐ—犯罪防止のための環境設計—、(財)都市防犯研究センター、1991
- 12) George L. Kelling, Catherine M. Coles and James Q. Wilson : Fixing Broken Windows, Simon & Schuster, 1996.11
- 13) 橋本敏子：地域のかたとアートエネルギー、学陽書房、1997.2

(2002年4月10日原稿受理, 2002年7月31日採用決定)